

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回坂戸市環境審議会
開催日時	令和5年7月6日(木) 9時57分～11時45分
開催場所	坂戸市役所 303・304会議室
会長の氏名	井元 りえ
出席者(委員)の氏名・出席者数	井元 りえ、板井 孝子、太田 諤、中里 和子、町田 和男、上岡 憂子、萩原 章、細田 千恵、【8名】
欠席者(委員)の氏名・出席者数	房野 洋、真野 博、宍戸 智行、小ノ澤 忠義
傍聴者数	なし
事務局職員の職・氏名	環境産業部長 石坂 知巳 環境政策課長 間々田 征典 廃棄物対策課長 上 政雄 環境政策課長補佐 尾澤 裕昭 環境政策課専門員 廣澤 隆夫 環境政策課企画調整係長 辻 里佳 環境政策課企画調整係主任 齋藤 直樹 知識経営研究所 田中 和幸 知識経営研究所 中谷 祐貴子
諮問書の交付	1 諮問 2 挨拶 小塚副市長
会議次第	1 開会 齋藤主任 2 挨拶 井元会長 3 議事 (1) 施策の展開について (2) 重点プロジェクトについて (3) 計画の推進方策について 4 その他 次回のスケジュールについて
配布資料	〈事前配布〉 ・令和5年度第2回坂戸市環境審議会次第 ・資料 坂戸市環境基本計画策定素案 〈当日配布〉 ・資料1 第3次坂戸市環境基本計画(素案)正誤表 ・資料2 第3次坂戸市環境基本計画(素案) 前回からの主な変更点について ・資料3 坂戸市における脱炭素のまちづくりに向けた包括連携協定について ・次回の開催通知

議 事 の 経 過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	審議会開会前に第3次坂戸市環境基本計画の策定について、諮問を行います(諮問)
副市長	(挨拶)
事務局	本日の審議会は公開となっている。現在の傍聴希望者はいません。
会長	「(1) 第3次坂戸市環境基本計画(素案)について」を議題とする。 (前回からの主な変更点について、事務局より説明。)
会長	まず、第1章、第2章について、意見・質問等あるか。
会長	第1・2章については意見なしということで、次に、第3章について、意見・質問等あるか。

委員	他のページも同様だが、例えば 46 頁の達成指標について、目標値を「43%」「50%」としているが、何を基準に設定されているのか。わかるように記載してほしい。また、5 月に提示のあった現状の数値と大きく異なった数値となっているが、説明してほしい。
事務局	達成指標について、数値化することが難しいため、市民アンケートの調査結果において、市民満足度を上げることが達成指標として妥当と考え、いくつか達成指標として設定した。 提示数値の違いについては、5 月提示当初は「満足」と回答した結果のみだったが、「まあ満足」と回答したものも含めてよいと考え、修正した。 目標設定の考え方について、「まちなかのみどりの豊かさ」については今後 10 年間、現状のみどりを守り維持していこうという思いから設定した。今後も改定前にはアンケート調査を実施することになると思う。記載方法は検討させていただきたい。
委員	現状維持を目標にしたということか。
事務局	達成指標の項目によっては、「改善すべき」であったり「現状を保てれば」という認識のものだったり様々あるので、項目ごとに整理し、設定した。
委員	アンケート調査を見ると、調査手法については、一般的な方法で実施していると思うが、回収率が市民 40.7%、事業者 51%とある。いつも思うのは、アンケート回答者以外の 60%の方はどう思っているのか、この調査自体をどう考えているのかの方が気になってしまう。当然、返答の結果を施策に反映することになると思うが、市の環境行政そのものに興味・関心を持ってもらわないといけない。本計画が完成した時に、どれだけの人が目を通してもらえたかも含めて調査してもらえると今後に活かせるのではないか。
事務局	坂戸市の総合計画策定の際に実施した「まちづくりに対する意識調査」については、回収率が 30%と聞いている。今回の環境の意識調査では WEB 調査も導入したが 40%とほとんど変わらないくらいの回収率だった。どうやって回収率をあげるかは大きな懸案事項でありながらも、改善方法について方策がなかなか見つからない現状もあることから、委員の皆様からもご意見いただきたい。
委員	そういう懸案事項に対する市民の意見交換の場をいろいろなところで設けていただければと思う。
会長	回収率は、一般的な調査をみても、とてもよい結果だったという印象を持っている。委員のご指摘のとおり、アンケートの結果を達成指標に入れるのもよいと思うが、アンケート以外にも、さまざまな世代の意見を聴取する場を設けてもらえるとよいと感じる。
委員	28 頁の達成目標について、再生可能エネルギーの導入容量については把握できると思うが、市域における二酸化炭素排出量は結果でしかない。どういう施策と紐づくか見えづらい部分だと思うが、すべては無理でも、基本施策の中でどういった結果が結びついたのか、PDCA を回す仕組みを持った方がよいと思う。
事務局	80 頁の計画の進行管理にあるとおり、PDCA をいかに回していくかは計画の実行性を高めていくところにつながることであり、一連の進行管理の中で、二酸化炭素排出量の削減という結果につなげていきたい。
委員	なりゆきではなく、きちんと計画を立てたうえで進めてほしい。
委員	24 頁の表現について、19 頁では「脱炭素社会」とあってから内容の記載があるので、「脱炭素社会」が前にあればわかりやすいのではないか。
事務局	19 頁については、分野の名称と捉えていただきたい。この分野ごとに対して、基本目標を述べている。
委員	基本目標の後ろにカッコ書きであるからわかりにくいのであって、前にあるとわかりやすくなると思う。
事務局	ご意見に基づいてレイアウトを変更する。
会長	次に第 4 章について意見・質問等あるか。
委員	73 頁の「関連する基本施策」について、重要なことなので、ナンバリングが必要で

	はないか。
事務局	25 頁の基本施策のうち、どこに位置付けられるかを整理した。ご指摘のとおり「1, 2, 3」とナンバリングするというより、全ての施策に並列の考え方で●による記載をした。内部で表記方法について検討したい。
会長	関連ページを掲載したほうがよいのではないか。
事務局	文頭ではなく、文末に基本施策番号を入れることも考えたい。
会長	頁の表記があるともっとよいと思う。
委員	77 頁のさかど生きもの大調査について、事業展開のイメージ図が、前回の提示ではこと細かく記載があったが、今回は概略となっている。変更にはどのような意図があるか。
事務局	市の一方的な進め方ではなく、具体策について、ステップごとに協力者の意見を踏まえて変更していきたいという意図で、細かいところを省き、概要のみの記載に変更した。
委員	今回の方がいいと思う。明快でわかりやすい。具体策については、ステップ①から順に進めてほしいし、その都度、意見を聞く機会をもってほしい。 一方でもう少し、実際に進めることが市民に伝わるよう、具体的なことも一言二言、記載した方がよいのかとも思う。
委員	2-1、2-2 の重点プロジェクトには、市民や事業者、行政といった主体の記載があり、2-3 生きもの調査には記載がないので、よりそのような印象になるのではないか。市民がどう関わっていけるのか、行政からどのような働きかけがあるのかなど、関係者と役割が載っていればよいのではないか。
委員	市民がどういう形で意見や参加できるか、イメージ図などで明確になったほうがよいと思う。
委員	通年と単年が混ざっているので、整理してもらった方がよいと思う。
事務局	わかりやすく提示する方法について、検討させていただく。
委員	74 頁について、避難所等防災拠点に太陽光発電や防災用発電機が重要になってくると認識しているが、それ以外に空調機が重要である。空調設備は高効率化としか記載がないが、最近では、停電対応発電機がついた電源自立型空調機（空調機自体が発電機になる）の採用が進んでいるので、記載に加えてはいかがか。
事務局	図に落とすのは難しいと思うが、文章表記の中で、追記したいと思う。
委員	コージェネレーションの記載ではだめなのか。
委員	コージェネレーションは発電機に対する記載と思うが、自立型の空調機については通常空調機として機能し、いざとなったら発電機としても動けるので別になる。
委員	一時避難所と恒久避難所で分けて表記したらどうか。
事務局	こちらの重点プロジェクトは、地域防災計画に基づく避難所であり、一時避難所は想定していない。先ほどの具体的な機器の導入について、どこまでできるかも含めて検討が必要な部分であるため、プロジェクト内容の「なお、～太陽光発電システム等」の等にまとめているところ。自立型の導入が可能か、実際に等をどこまで拡充させていけるかも含めて検討していきたい。
会長	全体を通して、意見はあるか。ないようであれば、第3次坂戸市環境基本計画素案について協議を終了する。
事務局	(資料3 協定の内容について事務局より概要を説明。)
事務局	(4 その他について、事務局より連絡) ・ 次回の審議会開催予定については8月3日午前10時を予定している。
会長	(閉会の挨拶)
事務局	閉会

以 上